

	実態と課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を図る調査より、授業の内容を理解している、どちらかと言えば理解していると答えた児童は98.3%いる。一方、得意ですかという質問に対して、得意・どちらかという得意と答えた児童は64.4%であった。 ・新出漢字の定着ができていない。また、普段から漢字を使わない児童が多い。 ・すすんで本を読む児童が多い。ただし、読んでいる本の種類や読む量、スピードには個人差がある。 ・TOFASの結果は板橋区の平均を上回っているが、ワークテストの結果は平均を下回る単元があった。 ・授業中の発言やノートの記録などを見ると、理解や定着ができていないと思われる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短文を作る活動や言葉を使ったゲームなどを通して、書くことへの抵抗感を減らし、すすんで書こうとする意欲を高める。 ・読書の記録や朝読書、本の紹介や学級文庫の充実を図り、様々な本に触れられる環境を整える。 ・テストの結果だけにとらわれず、授業中の発言やノートの記録などから、定着ができていない内容はもう一度振り返ったり、補充のプリントなどに取り組みせたりする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を図る調査より、授業の内容を理解している、どちらかと言えば理解していると答えた児童は91.1%いる。一方、得意ですかという質問に対して、得意・どちらかという得意と答えた児童は71.2%であった。 ・都道府県の名称、位置など、基本的な知識が定着していない児童が多い。また、世界の国の名称や位置などは、児童によって興味や関心、基本的な知識に大きな差がある。 ・グラフの情報を正しく読み取り、そこから考察できる力が少しずつ身に付いてきている。 ・授業中に扱った用語や意味を理解することはできているが、それらの用語を使って説明したり、文章にしてまとめたりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を積極的に活用し、名称や位置を確認できる回数を増やす。また、国旗クイズや本などを紹介し、外国への興味関心も高める。 ・グラフを読み取るポイントを提示し、教科書に書かれているグラフには必ず触れるようにする。 ・学習のまとめをする際に、教師がまとめたことを文章にするのではなく、児童と一緒に考えたことを黒板に書くようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・小数のわり算の計算（特にあまりの処理や四捨五入して答える、小数点の打つ位置）の理解ができていない児童が多い。 ・少人数のコース別で学習を進めているので、それぞれのコースで安心して学習を進められている。単元の得意・不得意を見極めて、それぞれのレベルに合うクラス分けになるように、教員で相談をしている。 ・文章題から読み取ったことを図や数直線で表すことはできるようになっているが、プリントやワークテストで問題を解くときには活用せずに間違える児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の計算など苦手とする児童が多い単元を中心に夏休みの課題を出し取り組む。 ・朝学習や家庭学習で、苦手な問題を繰り返し解かせ、理解をさせる。また、コースによって授業の始まりに前時で行った学習の振り返りをする時間を設ける。 ・レディネステストを活用して、自分の能力に合ったコースを選べるようにする。繰り返し行い、自分で判断ができる力を育てる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活や既習事項からつなげて想像し、問題を見いだす事ができない児童が多い。 ・実験の条件制御については、友達の説明を聞くと分かる児童が多いが自分で考えることは難しい。また、実験の際に条件制御を意識して行っていないこともある。 ・学習内容について授業内では分かっているが、あとから振り返ると分からなかったり、既習事項と混ざっていたりすることもあるので、定着までに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活や既習事項から問題を見いだせるように、児童に疑問をもたせられるような声掛けを行い、疑問を問題として設定できるように文型を用いるなどして指導する。 ・条件を制御して実験が行えるように、実験などの各場面で変化している条件と変化していない条件を意識付けるような声掛けを行う。 ・予想や仮説を基に実験方法を考え、予想や仮説が正しければどうなるかの想定をする場面などを重点的に指導することで、科学的な問題解決の流れを定着させる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の歌声の響きを意識して、意欲的に歌う児童が多い。しかし、二部合唱で歌声の重なる心地よさを感じるには至っていない。 ・器楽においても、意欲的に取り組んでいるが、旋律を歌うように表現したり、楽器のもつ一番よい音を引き出す奏法について追究したりする意識がまだ薄い。 ・音楽を鑑賞して、感想や想像したことを書いたり発言したりすることができる。その理由を音楽から見付けられるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な二部合唱曲で、相手のパートの歌声を聴きながら、自分のパートを歌う経験を増やし、正しい音程感を身に付けさせる。 ・よい音を範奏やCD音源で聴かせたり、互いの音をじっくりと聴く場面をつくったりして、音に対する感覚を磨くようにする。 ・音楽を聴いて感じ取ったことと、音楽を形づくっている要素とを結び付けて考えられるように、板書やワークシートを工夫する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年の経験を生かしいろいろな題材に積極的に取り組む児童が多いが、既成のデザインにとらわれ発想が広がらなかったり、活動が停滞したりする児童もいる。 ・安全面に注意しながら、用具を扱える児童が多いが、個人差がある。また様々な道具になれてきたが、扱いが雑になってしまうこともある。 ・自分の作品に自信がなかったり、良さが捉えられない児童もいるので、自分の活動を振り返り、制作の見通しをもったり、友達や自分の作品のよさを見付けたりし、自己肯定感や達成感を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫のきっかけとなる掲示物を活用したり、材料や用具・表現方法の選択の幅をもたせたりすることで、より自分の作品のイメージを明確化していけるよう支援する。 ・短時間のスケッチを活用し、用具についての興味と理解を深め、再確認させる。また作業動線を確保し安全面に配慮する。道具を扱うときの心の持ちようについても折に触れ指導する。 ・振り返りカードを記入することで、見通しをもった活動を意識させる。また、作品ファイルを用いたポートフォリオを作成し自分の作品のよさを見付けさせたり、児童の気付かない良さについては、積極的に声かけをしたりして、自己肯定感を高める。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、運動に取り組む機会が減っているため、体力の低下、運動をよくする児童とそうでない児童の二極化がより進んでいる。 ・どの児童も体育の授業中はすすんで運動に取り組んでいる。ただし、運動能力の差が大きい。 ・休み時間は室内で過ごす児童が多い。 ・集団で関わり合い、教えあったり、考えを伝え合ったりすることになっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じて、始めから高学年の内容に取り組みせるのではなく、中学年の内容に取り組む時間を設ける。 ・休み時間に使える遊び道具を充実させ、すすんで運動に取り組もうとする意欲を高める。 ・児童のよい動き、よい発言、よい考えは称賛する。また、振り返りの時間に紹介したり、掲示をしたりして、クラス全体に広める。 ・集団で関わり合う時間には、話し合いの観点を伝え、何度も繰り返し行うことで、行い方に慣れさせる。